

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月20日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26285140

研究課題名(和文) 変動する社会における社会保障公私ミックスの変容 量質混合方法論による接近

研究課題名(英文) Mixed Economy of Welfare in Changing Societies: Using Mixed-Methods

## 研究代表者

松田 亮三 (Matsuda, Ryoza)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：20260812

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,300,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、1980年代から2010年代までの社会保障の各領域(年金、医療、介護、家族支援など)における公と私の関係の変化について、各領域においてまた国々において多様な組み合わせがあること、そしてそれが近年複雑性を増しつつ変化していることを示した。また、特に日本においては、制度の安定性が図られる一方で、雇用・就労の変化、長寿化などの住民生活の変化により生じる新しいリスクに対応する新しい公私の関係のあり方を構築することが課題となっていることを示した。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

社会保障のあり方を考える上で、個人・家族の生活(私的な領域)と年金・医療・介護などの政府がつくる制度(公的な領域)との関係をどう設計するかは、生活の安定化を図る上で重要である。この研究では、このような仕組みがどのように出来ているかを学術的に明らかにするとともに、この関係をどう設計するかについて設計する基本的な考え方、日本の特徴などを明らかにした。これらの内容は、社会保障などをめぐる社会の議論に貢献することが期待される。

研究成果の概要(英文)：This research examined changes in public-private of welfare provision, including pension, health and long-term care, and family benefits between the 1980s and the 2010s in selected countries. It revealed that varied mixes of welfare in different countries have increased complexities in the period observed. It also showed that maintained traditional institutions for welfare provisions, in Japan, are insufficient to ensure decent life of citizens against new social risks brought about by social changes, including the changed labor market with precarious jobs and the prolonged life after retirement. It argues that a new public-private mix shall develop to bridge the current gaps in welfare provision for securing social protection.

研究分野：社会政策

キーワード：社会保障 公私ミックス 混合研究法 福祉国家 年金 医療 介護 社会リスク

## 1. 研究開始当初の背景

社会保障の各分野、とりわけ医療と年金においては、各国における公私ミックスは、規範的にまた実証的に研究されてきた。規範的には、公私ミックスは、公共部門の役割をどのように設定するかという課題であり、公共部門の責務をどのように位置づけるかということに関わる問題である。これは、国家の役割を秩序維持等最小限の役割として規定する最少国家論から、能動的積極的に、市民としての生活水準の維持を保障しようとする人権保障国家という国家介入の問題として、議論されてきた。実証的には、医療と年金を、そして介護等において、公共部門と私的部門が、財政・供給の両面においてどのような機能を果たしているかが検討されてきた。このように、公私ミックスは、社会政策の政策設計の基本に関わる重要論点である。

これまでの検討では、各国の医療政策における公私ミックスが、財政面と供給面の両面で異なること（共時的変異）、またその差異が歴史的变化の中で形成されてきており通時的に変化してきている。また近年、公私ミックスはより複雑なものとなっている。医療を例にとれば、英国やスウェーデンのように租税をもとに公共部門の一部として医療を実施してきた国において、租税が主な財源であることには変化はないものの、私的医療供給者への委託をかつてない規模ですすめてきている。他方、社会健康保険を医療制度の基軸におく国においては、むしろ公私を含めた医療供給への統制的介入を革新していく方策がとられてきた。さらに、中国・韓国そして米国など、新たに普遍主義的な医療制度を構築した、あるいはしようとしている国においては、より幅広い公私ミックスが立ち現れている。また、公私ミックスの変容は、単に医療だけでなく年金・介護・家族支援等社会保障の他の分野でも同様に生じている。

## 2. 研究の目的

社会保障の各分野（年金・医療・介護・家族支援）について、1970年から2010年までの公私ミックスの変容を、それぞれの歴史によって形成されてきた制度配置を考慮し、総合的に明らかにすることである。具体的には、（1）1970年代における医療、年金、介護、家族支援、等社会保障諸領域における公私ミックスの制度配置の整理を行うこと、（2）1970年代から2010年にかけて量的変化を明らかにすること、（3）同じく、その期間における質的变化の抽出・同定を行うこと、さらに、（4）それらの変化を、グローバル化という今日の趨勢と各国固有の政治・経済・社会を前提とした制度配置を考慮にいれ、また理論的な含意を明確にする説明モデルを、開発・検討すること、である。

## 3. 研究の方法

本研究は上記の目的を達成するために、量的な手法と質的な研究とを総合した混合研究法を用いて行うことを志向した。そのため、第1に、社会保障各分野における、公私ミックスについて日本、フランスなど各国の精緻な事例検討を実施した。特に、グローバルにみた場合に、これまで理論的には明確に位置付けられていない日本の福祉国家モデルについての検討を重視してすすめた。第2に、事例検討をもとに、量的な研究と質的な研究方法を結びつけるための新たな質的変数の開発に向けて、そのための理論枠組みを形成し、操作可能な変数とする可能性を検討した。第3に、利用できる質的変数を含めた、上記課題に関する量的な研究をすすめた。これらの作業をすすめる上で、国際学術会議を2回開催するとともに、内外の関連する研究者からの評価を適宜得た。

## 4. 研究成果

（1）国際機関、研究機関等が更新しているデータベースについての検討を行い、社会保障に関わる量的な把握の現状を整理するとともに、年金、医療、介護、家族などの領域において、概念的整理をもとにした類型化とそれをふまえる質的変数を用いた研究の動向について検討を行った。この作業を行う過程において、20世紀後半における日本社会における社会保障の公私ミックスと検討するためには、その福祉国家の在り方、とりわけ雇用・就労確保とそこ結びついた制度設計という特徴と関わらせた質指標の作成を行っていくこと、さらにその前提としての概念モデルの形成を行うことが重要な課題として浮上した。この点についての検討を深めていくため、これまでの福祉国家論には十分反映されていない雇用・就労・産業面を組み込んだ日本福祉国家のモデル化をすすめた。このモデルを80年代半ばまでにおいて成立したものとして、その後の30年間にどのように変化しているかについて、さらにそれとの関わりにおいて、そのモデル年金、医療、介護などの領域における公私ミックスの変化について検討した。具体的には、1980年代後半からの「失われた20年」における社会保障の変容の整理とグローバルなトレンドとの比較検討、日本福祉国家における家族主義の変化、年金政策、介護政策、医療政策の変容、日仏医療政策の比較、不安定就労層への支援に関する日本の施策の特質、ジェンダー役割の変容の程度と日本福祉国家の特色、などの検討が含まれる。これらの研究には、海外の研究者の参画も得て、最終的に英文での公開を目指して研究を継続している。

(2) 上記のモデル化とも関わらせて、社会保障の公私ミックスをそれぞれの研究者の強みを生かしつつ推進した。この成果には、フランスにおける社会保障機構と共済組合との歴史的検討と関連する著作の翻訳、フランスにおける医療供給の公私ミックスと中央-地方統治ネットワークガバナンスの状況、日本の医療供給公私ミックスと医療保険との接合の特徴、年金再編による旧来の「日本型福祉」の衰退と普遍主義上の課題、医療保険制度改革における政治の日韓比較を通じた政策課題設定における制度の制約性の解明、日本の2009年年金改革の「上乘せ・横出し」性質の解明、日本とオーストラリアの社会的保護における「政治-経済」および「政治-社会」の関係性変化の解明、などが含まれる。なお、研究前半における成果は、単行本として公刊した(松田亮三・鎮目真人編『社会保障の公私ミックス再論:多様化する私的領域の役割と可能性』(ミネルヴァ書房, 2016年)。

(3) 医療、介護、年金、家族給付等において、公私ミックスについての量的分析を試み、(1)で述べた質的な変数を組み込んだ分析を行う必要から、さらなる検討を行っている課題が明らかになった。別の言い方をすれば、健康との関わりなどに含めて、福祉国家の量的研究の新たな領域を切り開いていくためには、質的な変数の革新が重要であることが課題として示された。

(4) 上記課題と合わせて社会保障公私ミックスについての理論的検討をすすめた。これらには、Hackerによる制度改革類型の拡張的適用(制度縮減だけでなく拡大にも適用)、メタガバナンス論の検討、批判的実在論の知見に依拠した福祉国家モデル分析の枠組みの検討・構築、福祉国家の類型論とモデル化と再整理、などが含まれる。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計 29 件)

- 1 松田亮三, 医療福祉政策研究への多様なアプローチ—特集にあたって, 医療福祉政策研究, 査読無, 2(1), 2019, 1-2
- 2 松田亮三, 医療福祉政策研究への多様な接近—展望, 医療福祉政策研究, 査読無, 2(1), 2019, 3-14
- 3 加藤雅俊, Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics, Proceedings on "Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization", 査読無, 2, 2019, 76-94
- 4 松田亮三, 医療福祉政策研究—多様な課題とアプローチを受け入れて, 医療福祉政策研究, 査読無, 1(1), 2018, 1-6.
- 5 加藤雅俊, 開発と環境保全をめぐる認識の変化とその社会的含意, 次世代海洋資源調査技術・社会科学レファレンス Vol. 2 『海底鉱物資源調査・開発関連産業の海外進出に向けて—太平洋諸島を中心に—』, 査読無, 2018, 9-14
- 6 加藤雅俊, 海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とは—政治学の立場から—, 第27回海洋工学シンポジウム予稿集(OES27-039), 査読無, 1, 2018, 1-6
- 7 加藤雅俊, 諫早湾干拓紛争からみる紛争処理システムとしての司法制度の意義と限界—政治学の立場から—, 法学セミナー, 査読無, 766号, 2018, 44-49
- 8 加藤雅俊, 文献紹介: 中谷義和・朱恩佑・張振江編『新自由主義的グローバル化と東アジア: 連携と反発の動態分析』(法律文化社, 2016年), 立命館大学人文科学研究紀要, 査読無, 116号, 2018, 167-174
- 9 加藤雅俊, 書評: 藤田菜々子『福祉世界』(中央公論新社, 2017年), 横浜国際社会科学研究所研究, 査読無, 23巻2号, 2018, 97-104
- 10 松田亮三, 日韓における保険料賦課をめぐる政策課題の共通性と差異—二か国の事例からの問い, 社会政策, 査読無, 9(2), 2017, 68-72
- 11 松田亮三, 日韓医療保険における保険料賦課の課題, 社会政策, 査読無, 9(2), 2017, 40-41
- 12 松田亮三, 医療のアクセス障壁—実態分析への接近と状況把握について, いのちとくらし研究所報, 査読無, 59, 2017, 1-9
- 13 松田亮三, 政策分析という学術・技法—医療政策での活用を展望して, 日本医療経済学会会報, 査読無, 33(1), 2017, 41-52
- 14 加藤雅俊, 現代政治学におけるメタ理論の必要性—批判的実在論が問いかけるもの—, 横浜法学, 査読無, 26, 2017, 97-145
- 15 加藤雅俊, 新しい政治学(の教科書)には何が必要か—政治学におけるメタ理論的基礎の必要性—, 法政論集, 査読無, 269, 2017, 75-102
- 16 鎮目真人, 日本における年金の公私ミックスの動向と課題, 季刊 個人金融, 査読無, 11, 2017, 36-47
- 17 鎮目真人, 年金制度の縮減と維持・持続局面における制度改革類型—2012年改革と2016年改革を中心に—, 関西社会福祉研究, 査読無, 4, 2017, 97-145
- 18 Ryoza Matsuda, Public/Private Health Care Delivery in Japan: And Some Gaps in "Universal" Coverage, Global Social Welfare, 査読有, 3, 2016, 201-12
- 19 松田亮三, 市場とネットワークによる医療供給ガバナンス: 1970年代の日本医療機構の考

- 察, 日本医療経済学会会報, 査読有, 32(1), 2016, 17-27
- 20 鎮目真人, 年金制度改革における政治的言説, 新しい政策アイデアの役割 —現代福祉国家論のリサーチフロンティアとしての一試論—, 季刊社会保障研究, 査読有, 51, 2016, 318-336
- 21 Ryozo Matsuda, Social Health Insurance as a Health Safety Net in Japan, the US, and France :An introduction. *Ritsumeikan Social Sciences Review*, 査読無, 51(3), 2015, 1-3
- 22 松田亮三, 「社会保障・税一体改革」後の医療政策, 大原社会問題研究所雑誌, 査読無, (685), 2015, 5-17
- 23 深澤敦, フランスにおける人口問題と家族政策の歴史的展開—第一次世界大戦前を中心として—(下), 立命館産業社会論集, 査読無, 50 (4), 2015, 53-74
- 24 Masato Shizume, Policy Discourse, Framing, and The 2004 Pension Reform in Japan: Rethinking Vice into Virtue Theory, *US-CHINA LAW REVIEW*, 査読有, 12, 2014, 1-21
- 25 松田亮三, グローバル化と医療政策分析:新しい課題, 日本医療経済学会会報, 査読無, 31(1), 2014, 3-12
- 26 松田亮三, グローバリゼーションと健康・医療, 新しい研究領域, 日本医療経済学会会報 査読無, 31(1), 2014, 1-2
- 27 松田亮三, イングランドのNCD対策:心血管アウトカム戦略を中心に, 公衆衛生, 査読無, 78(5), 2014, 307-311
- 28 深澤敦, フランスにおける人口問題と家族政策の歴史的展開—第一次世界大戦前を中心として—(上), 立命館産業社会論集, 査読無, 50(3), 2014, 83-101

[学会発表] (計 55 件)

- 1 Monika Steffen and Ryozo Matsuda, Universalism under Pressure: The Changing Role of the State in the French and Japanese Healthcare System, *Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades” : A Workshop*, 2019
- 2 Ryozo Matsuda, Gradual Tunings for Sustainability: The Japanese Healthcare Reform since the Late 1980s, *Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades” : A Workshop*, 2019
- 3 Ryozo Matsuda, Masato Shizume and Masatoshi KATO, *Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades, Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades” : A Workshop*, 2019
- 4 Ryozo Matsuda, Masato Shizume, And Masatoshi KATO, *Japanese Welfare Model in Transition: Continuity and Change in the Corporate Centered Conservative Welfare State, International Postgraduate and Academic Conference on “East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World”, 2019*
- 5 Masatoshi KATO, *Welfare State Theory and the Japanese Model: Features and Dynamics, Workshop on “Japanese Welfare Model: Continuities and Changes during “the Lost Two Decades” ”, 2019*
- 6 Masatoshi KATO, *Limits of the Judicial System as a Form of Conflict Resolution in Modern Society: the case of social conflict in Isahaya City, International Postgraduate and Academic Conference on “East Asia in Transition: Local Challenges under the Globalized World”, 2019*
- 7 加藤雅俊, 「東アジア福祉国家論」から「東アジア発の福祉国家論」へ—比較福祉国家論の理論的刷新に向けて—, 進化経済学会名古屋大会, 2019
- 8 加藤雅俊, *Social Problems and Welfare State Transformations in Japan: from the Point of Comparative Politics, International Symposium on “Comparative Approach to Socio-Economic Transition and Trends of Political Reintegration in East Asian Countries under Globalization”, 2019*
- 9 加藤雅俊, 「批判的実在論における『戦略・関係論アプローチ』の位置と課題—ボブ・ジェソップの『国家』などを手がかりとして—」, 批判的実在論研究会, 2019
- 10 Ryozo Matsuda, *How a complex financial system mediates politics: an analysis of the Statutory Health Insurance System in Japan, The 25th IPSA World Congress of Political Science, 2018*
- 11 Masatoshi Kato, *On Theoretical Possibility of East Asian Welfare Regime: From the Point of Comparative Politics, International Symposium on “East Asia and the World after Globalization”, 2018*
- 12 加藤雅俊, 「他の手段を用いた社会的保護」モデルの特徴と行方—比較福祉国家論における日本と豪州—, CRAPE 研究会, 2018
- 13 加藤雅俊, 紛争処理システムとしての裁判制度の意義と限界—政治学の視点から—, 日本法社会学会学術大会「ミニシンポジウム①『諫早湾干拓紛争』の諸問題—法学と政治学からの分析」, 2018
- 14 加藤雅俊, 合評会「藤田菜々子『福祉世界』(中公選書、2017年)」討論者, 経済学史学会関西西部会第174回例会, 2018

- 15 加藤雅俊, 「海底海洋資源の調査・開発を進める上で必要となる社会的技法とは—政治学の立場から—」, 第27回海洋工学シンポジウム, 2018
- 16 加藤雅俊, ボブ・ジェソップ『国家』をめぐって—その意義と課題—, 批判的実在論研究会, 2018
- 17 加藤雅俊, 「緊縮国家」の政治的帰結—オーストラリアを事例として—, 日本政治学会研究大会, 2018
- 18 Ryoza Matsuda, Epidemiological Knowledge for local health policy making: Insights from the new public health system in England, The 21st World Congress of Epidemiology, 2017
- 19 Ryoza Matsuda, Hierarchy, market or network? Analysing governance of the Japanese mixed health care delivery, The 3rd International Conference on Public Policy, 2017
- 20 Ryoza Matsuda, Japanese Health Care System: Universal coverage with mixed provision, Tata Memorial Centre Platinum Jubilee Conference “HEALTHCARE A Commodity or Basic Human Need?”, 2017
- 21 Ryoza Matsuda, Welfare State and Dying: A Case Study of Japan”, The 14th East Asian Social Policy Research Network Annual Conference, 2017
- 22 Masato Shizume, New Policy Idea, Social Discourse and Unpopular Pension Reforms in Japan, The 14th East Asian Social Policy, 2017
- 23 松田亮三, 医療福祉政策研究への多様なアプローチ, 日本医療福祉政策学会第1回研究大会, 2017
- 24 松田亮三, 諸外国の公衆衛生政策における健康格差指標, 第76回日本公衆衛生学会, 2017
- 25 加藤雅俊, 比較福祉国家論の到達点と課題および今後の展望—政治学の立場から—, 名古屋大学大学院経済学研究科課題設定型WS「社会経済研究」, 2017
- 26 加藤雅俊, 比較福祉国家論の到達点と課題—社会統合の変遷の政治学的分析に向けて—, 比較福祉国家研究会, 2017
- 27 加藤雅俊, 現代政治学におけるメタ理論の必要性—批判的実在論が問いかけるもの—, 批判的政治学研究会, 2017
- 28 加藤雅俊, 複雑化・流動化する社会における『政治』の可能性と課題, 立命館大学産業社会学会共同研究会, 2017
- 29 Ryoza Matsuda, Politics of Institutionalizing Economic Appraisal in Health Care in Japan”, The 11th meeting of the International Society for Priorities in Health, 2016
- 30 Ryoza Matsuda, A Comparative Politics of Funding in England and Japan: Policy problems and Institutions”, The 24th World Congress of Political Science, 2016
- 31 Ryoza Matsuda, Exploring a Public/Private Nexus of Health Care Provision: Ideas, Regulatory Frameworks, and Adaptability, The Third ISA Forum of Sociology, 2016
- 32 鎮目真人, 年金制度改革における政治的言説、新しい政策アイデアの役割—現代福祉国家論のリーサーフロンティア—, 第5回「社会保障公私ミックス」研究会, 2016
- 33 松田亮三, 医療供給における公私ミックスと低所得者への医療, 第5回「社会保障公私ミックス」研究会, 2016
- 34 深澤敦, フランスにおける家族政策と家族運動—第一次世界大戦前のムーラン・ヴェール街の福祉事業を中心として—, 第5回「社会保障公私ミックス」研究会, 2016
- 35 深澤敦, フランスにおける人工問題と家族政策の歴史的展開, 社会政策学会総合福祉部会, 2016
- 36 加藤雅俊, 現代国家の政治学的分析に向けて—「福祉国家—国民国家システム」を越えて—, 横浜法学会研究会, 2016
- 37 Ryoza Matsuda, Caring for old people in Japan, Vieillir au japon: soins et accompagnement des personnes agees. Une perspective comparative franco-japonaise: Comment le Japon gere-t-il le probleme du vieillissement rapide de sa population ? 2015
- 38 Ryoza Matsuda, Linking and persuading roles of policy ideas: Development of sub-national governance of health and long-term care in Japan, 2015 Annual ESPAnet Conference, 2015
- 39 Ryoza Matsuda, Re-knotting health care governance under financial pressure: a case study on evolving decentralized mechanisms of Japanese health system, The 2nd International Conference on Public Policy, 2015
- 40 松田亮三, 「福祉国家における医療機構類型論の新たな展開」, 社会政策学会第130回研究大会, 2015
- 41 鎮目真人, 年金制度改革における政治的言説、フレーミング、新しい政策アイデアの役割—プロスペクト理論に基づく不人気政策の理論, 日本公共政策学会, 2015
- 42 加藤雅俊, 福祉国家（論）におけるガバナンスへの注目—効率性と正統性の模索—, 社会保障公私ミックス研究会, 2015
- 43 加藤雅俊, 政治学における批判的実在論の可能性—ストラクチャー・エージェンシー問題を手がかりに—, 批判的実在論研究会, 2015
- 44 加藤雅俊, オーストラリアにおける社会統合の変遷—社会政策と移民政策の変容—, 「労働

の国際移動」研究会, 2015

45 鎮目真人, ポリシーディスコース、フレーミングと 2004 年年金改革、第 43 回福祉社会学会研究会、2015

46 Ryoza Matsuda and Monika Steffen, Multilevel Governance in Comparison: national-Regional Dynamics in the Regulation of the French and the Japanese Healthcare systems, The 23rd World Congress of Political Science, 2014

47 Masato Shizume, Rethinking Vice into Virtue? Policy Ideas, Framing and the 2004 Pension Reform in Japan: A Prospect Theory Case Study, Social Policy Association Conference, 2014

48 松田亮三, 医療機構ガバナンスの変化—国家・市場・地域, 日本医療経済学会第 38 回研究大会, 2014

49 加藤雅俊, ボブ・ジェソップの政治分析—戦略・関係アプローチに基づく資本主義国家分析、その到達点と課題—, 日本政治学会研究大会, 2014

〔図書〕(計 11 件)

1 van Ginneken E. and Busse R. (eds.) (Ryoza Matsuda), Health Care Systems and Policies. Health Services Research, 2018, 11

2 永田祐, 岡田忠克, 鎮目真人他, よくわかる福祉行財政と福祉計画, ミネルヴァ書房, 2018, 184 (30-31, 32-33, 34-35, 40-41, 42-43, 44-45)

3 新川敏光, 島田幸典, 加藤雅俊他, 国民再統合の政治, ナカニシヤ出版, 2018, 300

4 鎮目真人, 宮本太郎他, 転げ落ちない 社会困窮と孤立をふせぐ制度戦略, 勁草書房, 2017, 384(255-285)

5 近藤克則, 松田亮三他, ケアと健康—地域・健康・病い, ミネルヴァ書房, 2016, 337(239-263)

6 ミシェル・ドレフュス(著), 深澤敦(訳), 小西洋平(訳), フランスの共済組合 今や接近可能な歴史, 晃洋書房, 2017, 196

7 松田亮三, 鎮目真人, 加藤雅俊, 西野勇人, 小西洋平, 長谷川千春, モニカ・ステフェン, 高山一夫, 社会保障の公私ミックス再論: 多様化する私的領域の役割と可能性, ミネルヴァ書房, 2016, 280 (1-108, 243-254)

8 新川敏光, 加藤雅俊他, 福祉レジーム, ミネルヴァ書房, 2015, 256 (107-119)

9 小堀眞裕(訳), 加藤雅俊(訳) R. A. W. ローズ, ジョン・ワンナ, パトリック・ウェラー(著), ウェストミンスター政治の比較研究, 法律文化社, 2015, 308

10 新川敏光(監訳) 加藤雅俊他(翻訳) セバスチャン・ルシュヴァリエ(著), 日本資本主義の大転換, 岩波書店, 2015, 239(95-114, 167-198)

11 鎮目真人他, 社会福祉学辞典, 丸善出版, 2014, 816(136-137, 268-269)

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名: 加藤 雅俊

ローマ字氏名: KATO, Masatoshi

所属研究機関名: 立命館大学

部局名: 産業社会学部

職名: 准教授

研究者番号(8桁): 10543514

研究分担者氏名: 深澤 敦

ローマ字氏名: FUKASAWA, Atsushi

所属研究機関名: 立命館大学

部局名: 産業社会学部

職名: 授業担当講師

研究者番号(8桁): 40288618

研究分担者氏名: 鎮目 真人

ローマ字氏名: SHIZUME, Masato

所属研究機関名: 立命館大学

部局名: 産業社会学部

職名: 教授

研究者番号(8桁): 50285508

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。